

令和元年度 第1回富田林市金剛地区再生指針推進協議会 会議録

日 時：令和元年11月13日（水） 午後3時～5時

場 所：青少年スポーツホール2階 大会議室

出席者：○協議会委員 13名

(敬称略) 友田 研也、中井 二郎、溝口 俊則、吉村 明、増田 昇、廣崎 祥子、
山田 貴之、中西 光司、朱雀 幸子、佐々木直樹、森木 和幸

鬼頭 幸靖代理：志知氏、中岡 正憲代理：生駒氏

○事務局 4名

まちづくり政策部まちづくり推進課

仲野次長兼課長、坂口主幹兼地域整備係長、加茂副主任、竹内

○コンサルタント 1名

特定非営利活動法人きんきうえぶ 寺田

○傍聴人 1名

会議概要（案件）

- 金剛地区再生指針推進の進捗について（平成30年度）
- 金剛地区再生指針推進の取組について（令和元年度上半期）
- 中・長期的な取組について（施設の再整備等のあり方検討など）
- その他

会議記録

1. 開会

(事務局：仲野)

- ・開会、議事進行にかかる留意事項の確認等

(吉村市長開会挨拶)

2. 委員紹介

(事務局：仲野)

- ・委員紹介
- ・設置要綱第5条第2項により協議会が成立していることを報告。

3. 議事

(増田会長)

はい、それでは会議を進めて参りたいと思います。

今日の議事ですけれども、(1) 金剛地区再生指針推進の進捗について、(2) 金剛地区再生指針推進の取組について、(3) 中・長期的な取組について、というのが議事でございます。順次前に進めて参りたいと思います。

まず最初に、金剛地区再生指針推進の進捗について、毎年進捗管理をしておりますけれども、簡潔にご報告いただければと思います。よろしくお願いたします。

(1) 金剛地区再生指針推進の進捗について (平成30年度)

(事務局：竹内)

- ・資料2説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。毎年の進捗管理で指針と現状の取組を取りまとめていただいております。今ございましたように、何かお気づきの点があったら、後ほどでも結構ですので、事務局の方にご報告いただくという形で、しときたいというふうに思います。

指針で掲げている取組、方向性、具体的な展開という形でまとめられていますので、また一度、お目通しをいただければと思います。

それでは、これはこの程度にさせていただいて、実質的な議論でございます、議事の(2) 金剛地区再生指針の取組について。

特に、令和元年度の上半期でどんなことがなされてきたかというのを、2部構成ぐらいでご報告をいただいて、議論をしていきたいと思っております。

まず、前半部分をご説明いただけますか。

(2) 金剛地区再生指針推進の取組について（令和元年度上半期）

(事務局：坂口、竹内) (コンサルタント：寺田)

・資料3（前半）説明。

(増田会長)

はい、一旦ここで切りましょうかね。前半部分ですね。

特に最後のパワーポイント、14ページですね。このパワーポイント。新たな部会ができたというのと、既存部会があって、その関係性を整理しながら、自主運営・自主活動というのをどう確立していくかということについて、少し意見交換をしたいと思いますけど。いかがでしょうか。

特に、拠点づくり、或いは情報発信、これは両部会が合同していますので、中井さん、若しくは廣崎さん、或いは佐々木さんあたりから何かございましたらいかがでしょう。はいどうぞ。

(中井副会長)

中井です。もともと居場所づくり部会っていうのがありまして、これで活動してたんですけども、この居場所づくり部会をもう少し具体的に動かそうというような動きがあって、それが拠点づくりと今名前を変えていますけども、もともと居場所づくりという形でした。そのメンバーが殆ど情報発信のメンバーと同じだったので、一つの部会として、成立してやっています。

そういう意味では居場所づくり部会っていうのは、わざわざ開催しなくても、今のところも拠点づくりの方で吸収といいますか、同じような活動をさせてもらってまして。

特に居場所づくりの本来の目的でありました、実際にモノをつくっていこうという方向にですね、どういうふうにしてつくっていただけるのか、それと場所、それから資金をどうするのか、運営をどうするのか、というようなことを、具体的に今検討を始めたところでございます。

私に関わってる中ではそんな感じですよ。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。他いかがでしょうか。廣崎委員、佐々木委員。少し補足なり、ございましたらいかがでしょう。

(佐々木委員)

今、中井委員が言っていたように、居場所づくりというところからは拠点ということで、実際に活動していこうというところになっています。

実際に動いていく中で、先ほど説明あったような拠点づくり部会として活動して参りました。

拠点づくりで一番問題になってるのが、やっぱり場所ってところがすごく難しい。以前増田先生がおっしゃられてたように、徒歩圏内に生活利便性があるような暮らしやすいまちをつかっていく上で、やっぱり住民活動の活性であったりとか、また、まちに関わる人たちのパートナーシップ的などころですね。そういったものが主体的に行われないと、まちづくりっていうのはなかなか

難しいんだよという話をちょっと聴講させていただいて。その中で、どのように展開していけばいいのかなっていうところは、ずっと今拠点づくりの部会で話しています。

今まで拠点づくりの会議の中でまとまった意見としましては、このコミュニティというものを育てていく拠点として、常にオープンな空間ですね。そういったものを、様々な住民の方々が利用できる居場所っていうものを、つくることを目標にしていきたいと思いますっていうのは、大きくは目印としてあるんです。その希望する人っていうのが、特技であったり、したいことっていうのを実現するためには、やはり誰もが利用できるスペース、箱っていうものがどうしても必要になってくる。

それが地域の中の地域住民の中で支え合いながら、多様な人々が暮らしの中で集える、また交流できる居場所として、先ほど説明にもあったようにワンディオーナーズカフェっていう形はどうだろうかっていうような、日替わりで様々な方たちが居場所を提供する仕組みづくりっていうものを今考えている最中なんです。

その中で場所ってなってくると、なかなかちょっと難しくて。ただ、今軽トラマルシェをやらせていただいている銀座商店街なんかは、かなり昔から、市長もおっしゃられた公設市場っていうのをどういうふうに活用していくのかということもあったとは思いますが、その銀座商店街っていうところの場所ですね。空間っていうところは、昔からやはりすごく馴染みのある空間であるというところから、ここの中で何か、今言ってるような居場所、拠点というものができれば、ちょっとベストではないのかなっていう意見では、まとまっているような状況です。

(増田会長)

はい、わかりました。ありがとうございます。廣崎さん何かございますか。

(廣崎委員)

お二方が語りつくしてくれていると思うんですけども、あえて言うとしたら、千里ニュータウンひがしまち街角広場の視察に行かせていただいたんですけども、そこでおっしゃっていたのが、これからの時代、ボランティアで継続させていくっていうのが、やはり難しいということで、ワンディオーナーズでボランティアで関わりたいという方は、もちろんそういう方法もあるし、そのワンディオーナーじゃなくて、ちょっとでも収入を得るっていうふうな、無償のボランティアっていうのは、継続が難しいということだったので、そんな仕組みを考えていくことも大切なのかなと思っているところです。

(増田会長)

なるほど、わかりました。たぶん、今従来型のボランティア活動っていうのは、どちらかというと無償ということを中心に展開してきましたけど、これからは、やはり継続性を考えていくと、少し経済的に回るというようなことが不可欠になってきていますので、そのあたりをどう考えていくかというのと、もう一つはあれですね、ここにあるように、助成金とか補助金を取得していこうと思うと、法人としての人格を持たないと、なかなか助成を取れないので、その辺の人格の持ち方みたいなやつをこの会議、或いは拠点づくり検討グループなり、情報発信グループなりで、その人格というのをどう考えていくのかというのは今後の課題かもしれませんね。

それとあと情報発信は、紙媒体でということですけど、これどれぐらいの部数出されてるんですかね。

(コンサルタント：寺田)

印刷自体は4, 500部の発行です。

(増田会長)

はい。それでいうと、金剛地区の中のどれぐらいの世帯数なんですか。

(事務局：坂口)

7, 000戸なんですけれど。

(増田会長)

2軒に1軒ぐらい。

(事務局：坂口)

そうですね。

(増田会長)

一つはこれの配架する位置やとか、その辺の話ですよ。もう一つはね。

はい、他いかがでしょう。まず、拠点づくりと情報発信検討グループについては、そのあたりの課題で、今後、既存の部会としての居場所づくり部会との統廃合をしながら、人格というのをどう形成していくかっていうのと、少し経済的に回る仕組みみたいなやつを具体的にどう考えるのかという話と、空き店舗であったり、そのあたりの活用の仕組みみたいなやつを、今後どう獲得していくのかという、こんなあたりでしょうかね課題になってくるのは。はい、ありがとうございます。

(吉村委員)

はい。僕ちょっとわからないんですけど、ワンディオーナーズシステムっていうの僕知らないんで、どんなものを参考に教えていただければ有難いです。

(増田会長)

はい。では、ひがしまち行って来られましたので、はい、どうぞ。誰でも結構ですが。

(中井副会長)

じゃあ、先説明します。ワンディオーナーズっていうのは、今考えているのは、空き店舗を借りて広く開放しようということなんですけども、その時に来て何も出さないのではなくて、コーヒーとか出せるようにできないかと考えた時に、コーヒーを出す人がいてるわけですね。それを毎日違う人がその店舗でやると。だから、一日目はAさんがお店を切り盛りして、その分のお金を、売上

金を取って、それからお金を支払うという形を毎日違う人がやっていくというふうな考え方を今やろうとしています。

ですから店を借りて、部会の自主的な運営をするんですが、実際先ほど言いましたように、運転資金とかが要るわけで、その時のお金をですね、一定のオーナーがいるんじゃなくて、毎月日替わりオーナーがやって、出すものも日替わりのオーナーさんが好きなものを出してもらおう。ただ、コーヒーだけは出してくださいねという一定の縛りは要るのかなというふうに考えていますけども。

で、そこでその人が、例えば展示会みたいなものをしたりとか、講習会みたいなのをしたいというのは、それはそれでやってもらっても良いと。

ただし、一部の売り上げは運転資金に還元させていただくと。それを毎日同じ人がやってもなかなか続かないので、5人なら5人でぐるぐる回すというようなことを今考えてるという感じです。

(増田会長)

よろしいでしょうか、はい。

(吉村委員)

もう一ついいですか。 僕が今自治会の副会長やっていますので、そういうロペのことありますよってことを言ったら、自治会の役員の方が、関心があるので教えてほしいというのがあります。それで、坂口さんの方に紹介しまして、連絡を取っていただいたんです。その方は、月一回とか土曜日とかに、ロペで何かできないかなと。僕はどう使うか分からなかったんですけども、そういう紹介とかがあったので、そういうものを増やしていくというのがワンディオーナーズということで考えていいわけですか。

(中井副会長)

考え方としては、今おっしゃった、週一回そういう人を5人持ってくれば毎日運営できると。そういう数を集めないといけないのがちょっと難点なんですけどね。1人だけ独占的にやるというのではなくて、たくさんの人にグルグル回していただけると。例えば、午前午後でも構わないんですけども、そのために数が要るという感じです。

(増田会長)

はい。よろしいでしょうか。後ほど、たぶん個別の活動の中でロペの活動が出てきますので、それが一つの例示と言ってもいいかもしれません。これはもうちょっと定常化しているという形になるというので確認してくださいね。よろしいでしょうかね。

もう一つの総合まちづくり部会の方は、いかがでしょうかね。これは友田さんがよろしいでしょうか、吉村さんがよろしいでしょうか、溝口さんがよろしいでしょうか。

(友田さん)

総合まちづくり部会ではね、あそこに書いてあります寺池公園とか、金剛中央公園とか、また青少年スポーツホールとか、そういうハード的な話になります。そういったものをやるにあたって、

やはりもう少し広域的な位置付けとか、富田林市全体での金剛の中の位置付けとか、そういうのがないと、なかなかそれを変えていく、リノベーションしていく市民権を得られないので、やはりそういったところをきちっと整理しなきゃいけないですよっていうのが一つあるんです。

しかしながら、それを運営するにあたっては、きちりとコミュニティを育てていかないといけないので、やはり小さいコミュニティを動かしながら、地域のコミュニティができて、その施設を運営できるような形をつくっていく、その2つを狙っていかないといけないということ。

そして、また今4つの部会が動いてますけども、それぞれの相乗効果を高めるためには、色んな情報を聞いた上で、例えばこの場所でこういうことで皆さんで取り組んだら、もっと相乗効果が高まりますよねとか。拠点の話でも、青少年スポーツホールの話とくっつけばもう少し繋がるとか、そんな話が色々出て来るので、そういったものを総合的にちゃんと検討しましょうよという形で一つ動かしています。

ただ、検討の一つは、市の方でまた調査をしてくれるんでね、そういったものと連携しながらやっていきましょうよと、位置付けをつくっていきましょうよという話と、それだけではなかなか地域の方々も動けないので、今出ているのはさくらプロジェクトとか、少しずつでも寺池公園を綺麗にしていきましょうとか、緑のネットワークをみんなでジョギングできる、走れるとかね、そういう形で美化・清掃していきましょうとか、そんなプログラムをつくりながら地域をつくっていく。

防災についても、私なんかは自主防災をつくってるけども、自主防災だけやなしに、地域の方々と連携して、それを小学校区の訓練にしていく。

さらに、もう2つ、3つの学校も連携するとか、金剛地区全体の訓練にしていくとか、そういうふうな取組を増やししながら、コミュニティ全体の活性化を図っていく。そういうことをトータルできちり考えるという取組を一つ一つ考えていきましょうと、そんな形でちょっと今立ち上げています。

(増田会長)

なるほど。これ部会から言うと、公園活用部会とかなりダブって考えたほうがいいのか、棲み分けるといふふうに考えたほうがいいのか。

(友田委員)

私今思ってるのは、かなり重なる部分があるんですけど、ただその中で、例えばみんなで道をつくっていくんですけどっていう時には、人を集めたり、そういう組織団体の活動をつくっていかなくちゃいけないので、そういったところはもう少し公園部会というところで特化してやるとかね。プランとかプロジェクトみたいなところを考えると、やっぱり実働していくっていう形にいるんで、公園部会は公園部会であった方が良くないかなという気はしています。

(増田会長)

なるほど、わかりました。たぶん、総合まちづくり部会は、後で今日の後半でも、市の方が中・長期的な取組として、施設の再整備のあり方みたいなことを少し検討されると。だから、それと密に連携をして、1つはプランづくりですね。或いは色んなものを繋げていくということの仕組みを

つくると。

もう一つはここの中で掲げられている、小さな、ただ単に頭でっかちだけなんだったら動かないので、身近なプロジェクトを起こしながら動いていくというところについては、公園活用部会とかなり連携して、具体的活動が動くというふうなそんなイメージですかね。

他はいかがですか。この総合的なまちづくりの中で、吉村さんなり、溝口さんなり、何かございますか。

(溝口委員)

いや、今総合まちづくり部会の友田さんがね、色んな位置づけで総合的な話になったんですが、総合まちづくり部会の中で今おっしゃった各部会というものがあって、部会に特化したものやっいていこうというものが一つあるんです。

その中で、たまたまこの間の総合まちづくり部会で、金剛団地自治会として、金剛中央公園の再生計画という形のプロジェクトっていうか、検討委員会を立ち上げてるんです。3回ほど会議を重ねて、この間の総合まちづくり部会で報告したんですが、その検討委員会で作られた、建替えを含めた設計図をお示しして、それが実際になるものかどうかは別として、私たちの夢、プランとして出させていただいた。これは今度、12月のまちづくり部会で、具体的な紹介をさせていただく予定をしておるんです。

総合まちづくり部会の中には、そういう特化した問題と合わせてですね、金剛団地の賃貸の部分については、これも絶対そうですが、高齢化も進んでおりますし、空き家も多いです。

そういう中でどういう形で、若者を呼び込もうかということで、今日もURの方も来られてますが、一つの自治会のプランとしては、公民連携という形で、近くに大谷大学もありますので、大谷大学の学生たちが団地に住み、そして自治会との協力・協働関係を持てれば、3年前に大谷大学の先生が来られた時にそういう話も出してもらったんです。

で、実際に大学の福祉的なカリキュラムの中で、団地の中で、集会所で色んな活動ができるかどうか、できないかどうか、そういうことを検証していきたいなど。

具体的にはまだ話は全然進んでおりませんが、自治会としての一つの考え方、団地の活性化、若者を呼び込むという形で今検討している段階でございます。

これも総合まちづくり部会の一部分を担うというところになるのかなと考えております。

(増田会長)

わかりました。ありがとうございました。

また後でURの方にもお聞きしたらええと思うんですけど、空き室、或いは集会所みたいなやつを大学生に開放して、地域協働・共催のお祭りをしたりとか、そういう事例って全国でちょこちょこあるんですよ。その辺の可能性も含めて、また後で少し、URさんが今考えられてるようなことを少し、今日も資料配っていただいていますので。今発言されますか、どうされますか。折角なので、今関連しますので、少しお話をお聞きしましょうかね。

(鬼頭委員代理：志知氏)

はい。今の溝口さんのお話の中にありました、例えば、学生が団地に住んで地域の活性化にという事例はですね、たくさんではないんですけど、実際にありまして。私どもがよく紹介しているのは、関東の方の事例と、あと愛知県の方の事例で、豊明団地というところがありまして。豊明団地というところは、団地のすぐ側に医療系の大学がございまして、その学生さんが団地に住まわれて、住まわれた中で自治会活動、自治会に限らないんですけども、地域の活動に参加する。例えば清掃活動でございましてとか、ラジオ体操一緒にしましょうとか、そういった活動をやっていく、或いはお祭りに参加する、お祭りを企画するといったことをやっている事例があります。

これはですね、URの私どものウェルフェア推進課という部署でないところの、いわゆる住宅の募集の部門が、先頭になってやってるところでございまして、ある程度まとまった戸数、大体目安として、5戸になりますけれども、5戸以上借りていただいて、学生さんが地域の活性化に向けた活動をしていただくと、家賃を割り引きする制度というのがあって、それを使ってこの豊明団地というところでは、頑張ってもらっている。学生さんには、月1回だったと思いますけれども、報告書のようなものも出していただいて、それを以って、こちらは頑張ってもらっているなど。で、継続して今後もやっていただくということで、家賃の割引を続けているところでございます。

関西においてはですね、ほぼ事例がないんですけど、千里の方の団地で、大阪大学さんの学生が、そういうことをやっていた例がございまして。

これはまだまだ私どもの営業力の不足ということもあって、これは浸透してないんですけどね、こういうことをもっとやっていく必要があるのかなというようには考えているところでございます。

(増田会長)

そうですね。お祭りも学生と一緒にやってるところがありますね。お祭りの企画から運営まで。

(鬼頭委員代理：志知氏)

はい、そうですね。今は団地に住みながらという話をしましたけれど、住んでいるのではなくてですね、定期的に学生さんがやってきたりとか、単発で学生さんがその地域、団地なりで活動していただいて、祭りを運営したり、祭りの一部にブースを出したりということもございまして。

ちょっと参考までに申し上げますと、これはURとは直接関係ないんですけども、この近くの河内長野市さんの方に南花台という私どもの団地がございまして。南花台の団地の方のすぐそばといいますか、団地外になりますけれども、スーパーのコノミヤさんがありまして、コノミヤさんいわゆる拠点といいますか、居場所づくり。コノミヤテラスというものを置かれています。

これは関西大学の学生さん、或いは院生さん、卒業生の方が中心になって運営されておまして、地域の活性化に大いに役立っているというところがございます。

祭りもそうでございますけれども、先ほどありましたようなカフェをやったりとか、イベント事もしょっちゅうやっておられる。そういった事例もございまして、URの団地ではないんですけどね、地域の事例として、私どももよく紹介させていただいている事例がございまして。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。そういう若者との連携ですかね、市内の大学との提携であったりというのも、是非ともご検討いただければというふうに思いますね。

あんまり頭でっかちになってプランづくりばかりに走ると、要するに、足元が付いていきませんので、やはり具体的なイベントっていうんですか、具体的な小さなプロジェクトを動かしながら展開していただくというのが上手い方向なんでしょうね。

ありがとうございます。他いかがでしょう、よろしいでしょうか。はい、どうぞ。

(佐々木委員)

先ほどの拠点づくりのところで、情報発信部会も一緒に動いていまして、ちょっと補足させていただいてもよろしいでしょうか。

(増田会長)

はい、結構です。どうぞ。

(佐々木委員)

ニュースレターでにぎわい金剛というのが、みなさんのお手元資料にもあります通り、情報発信の方法を、紙媒体と、またフェイスブックとかラインといったSNSですね。そういったもののネット媒体を利用してというところで、行政ではなかなか情報発信できない情報を発信できるように整理していきたいなというところがあります。

今までこの会議も、事務局の方が殆どだったんです。こういった部会ができ上がったことによって、ニュースレターを編集する会議に住民の方がちょっと参加してくださるようになってきました。

で、そうしてくると、いわゆる行政であったり、我々行政から委託をされてる機関であったりが知らない部分、要は住民の方が知っている居場所っていうところの情報なんか、すごく仕入れる機会になっています。それを載せているような形の、開けていただいたところで、右の星の、ロペカフェであったり、持ち寄り晩ご飯会というところなんですけども、今後はこういった情報がどんどん入ってくることによって、営利非営利関係なく、ここにたくさん星が載って、本当に一覧でこんなに居場所があるんだなっていうところを、把握できる紙面にしていきたいというイメージを持っているということだけ、補足させてください。

(増田会長)

はい、わかりました。ありがとうございます。

それともう一つ、情報部会に期待するのは、金剛の内部だけではなくて、富田林市の色んなフェアの時に、金剛のまちづくりがこんな形で進みますよというのを、色んな機会があるごとに情報発信していただきたいんですよね。

そうすると、ここだけが閉鎖的に隔絶された部分ではなくて、市の中でこんな活動が活性化しますというのは、他の地域への波及効果も出てくると思いますので、その辺は是非ともそういう情報部会ができると、発信していただきたいなと思います。はい、ありがとうございます。

それでは少し前に進ませていただいて、個別の活動が何点かございましたので、これをご報告いただければと思います。

(コンサルタント：寺田) (事務局：加茂)

・資料3 (後半) 説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございました、いかがでしょう。軽トラマルシェは、今日は担当は特にいらっしやらないでしょうかね。

私なんかも府の農政なんかと一緒にマルシェやる時に、農家の人に出店に来てもらうだけではなくて、生産されている農地の方に、お客さんに行ってもらうようなきっかけづくり、こういうのを是非やっていただきたいんですね。

だから出店だけしてもらって、要するに金剛の中の銀座街でやるだけではなくて、そこで知り合って、今度は反対に農場の方に出掛けて行くような、そんな仕掛けみたいなことをやるというのは、本来のマルシェの目的は、それで生産現場に来てもらいたいというのが、農家にとっての一つのモチベーションなんですね。

それともう一つは、色んなイベントを絡ませて、極力たくさん来てもらいたいというのと同時に、買い物難民やとか、まちづくりでいつも話が出るのは、やっぱり、極力みんなが使わないといけないんですね。みんなが行って極力買い物するとか、絶対に行くということで、地域で支えないと、結局どんどん衰退していきますので。極力自分たちで育てていくようなそんな感覚を持って、是非とも展開して行って、できたら買い物難民の解消のための回数が増えていく方向にいくと有難いんですね。

少しそんなことを、マルシェのところに、特に消費者の方と農家の方との交流の機会づくりみたいなやつを、是非とも仕掛けてもらうと有難いなど。そうすると、そういう出掛けて行く機会の時に農家回りをして、そこで農作物を買う機会を設定するとかですね、なんかそんなことができると、少し上手いかなと。

(吉村委員)

質問していいですか。今言われた、出掛けていただくということでね、僕が今すごく意識を持っているのは、行きたいけれども、ここは坂があるから行くのが大変やと。

色々聞く声は、もうちょっと出やすく、例えばタクシーとかバスで移動するとか。そういうことで、今聞いてましたらマルシェにも行ってもらうと、これが大事だということですから、何かそういうことで色んな工夫されてる経験とか、こういうことに気をつけていったらもっと来てもらえるんじゃないかと、何か経験があれば教えて欲しいなとすごく思うんですけども。

(増田会長)

なるほど。一つはね、消費者でグループをつくって、大型バスとかマイクロバスを借りて、生産現場に行くと。みんなで少し実費を持って行くと。そこで農家の庭先で買い物ができる。

(中西委員)

今おっしゃってるのは、軽トラマルシェに人を集めるってことやと思うんですけど。上り下りが多いので歩けないと。

(吉村委員)

ここに来てもらうための。2つありましてね。今聞いてたら、そういう企画もありかなと。でも普段はこっちやから、こっちに来てもらうのに何かいい手はないのかなと。

(中西委員)

近隣の中で動きにくい。

(増田会長)

近隣の中でなかなか動きにくいと。なるほど、そのあたりはどうなのでしょう、軽トラマルシェやってる時には、コミュニティバスみたいなやつが走ってるみたいなことが、連携としてできないかと。

(吉村委員)

そういう仕掛けがあれば、かなり違う。

(増田会長)

かもしれませんね。

(吉村委員)

月1回やから、レインボーバスが特殊な形で出るとか。何かそういう応援があれば、

(増田会長)

もうちょっと足を運びやすい。

(吉村委員)

大分イメージが違うのかなという気がするんです。

(増田会長)

それも一つですね。やっぱり福祉バスなりコミュニティバスと連携して開催されてますよというような仕組みをつくるというのも一つですよ。

(中井副会長)

学園祭なんかの時に、南海バスが分かりませんが、例えば、普通は通学に使うバスに一般の人も乗せて学園祭に連れていくとかもやってはりますから、あれと同じように、寺池台一丁目のバス停があると思うので、マルシェの開催日だけ便数を増やすとか、周るコースを変えるとか、そういうのを考える手はあるのかもしれませんが。それはバス事業者さんと相談しないとイケないと思いますけども。

あと考えられるのは、周りの人が車に乗せて帰るっていうのもありますけど、これはこれで事故があった時に困るので、専門家にやらせるのがいいんじゃないかなと思います。

(吉村委員)

そういうことも。

(増田会長)

そうですね、一度みんなで部会の方でその議論を。

(吉村委員)

色々と案なり、提案とか、市に要望とか、やったら良いと思います。

(増田会長)

そうですね、はい、ありがとうございます。

あともう一つは、桜祭りはいかがでしょう。これいつもよく言うんですけど、合同開催をしようと思うとなかなか調整大変なんですね。だから同時開催をすると。同時開催をすると、打ち合わせ

をせずに、日にちだけ決めて、ここでいう①②③が各自やる。

合同開催しようと思うと、色んな取り決めをやったりとか、役割分担をやったりとかするとしんどいものですから、よく言うのは、同じ日に同じ場所でやる同時開催とだけ決めて、各々の団体でやりましょうねみたいな、そんな緩やかな合同開催的な方が上手いこといきますね。いかがでしょうか。

(溝口委員)

合同開催というのも良いんですが、問題は天候なんですね。例えば、金剛団地自治会の主催は、4月の第1日曜日と決めてるんですが、それに当たり外れがある。それを例えば、今の3ヶ所の分を同じ日にしようとしてそこが雨だったら、全部パーになる。

でも、一週間ズレたりすると、例えば、何回か経験あるんですが、一週間後にその地域の人たちが独自にやれば、その時は非常に桜も見頃だと。自治会主催の時は、桜もまだ咲いてなかったと。そういうこともあるので、寧ろ3団体が一週間ずつズレてやれば。

(増田会長)

どれかは当たる。なるほど。

(溝口委員)

良い時にみんなが行けるんじゃないかなと。

今までの経験でね、やっぱりなかなか難しいんですよ。当初は桜の見頃も狙って日にちを決めてたんですが、それをやると事前のアナウンスがなかなか難しい問題も付いてるといふ。こういうことなので、どうなんでしょうね。

(増田会長)

両方の考え方があってしょうね。

この頃、気候が不順ですから、必ずしも4月第1週の日曜日に満開が来るとは限らないので、もうそれまでに先に終わってしまったりということがありますから。

ただやっぱり賑わいみたいなことから言うと、公園全体で、どこかの多拠点で、同時に色んな開催をされてる方が賑わいとしたら良いかもしれません。

(溝口委員)

それともう一つ。2年くらい前ですかね、問題になったのは、今日市長もお見えなんですが、桜の老朽化です。やっぱり、ソメイヨシノの寿命が50年と言われてはいますが、寺池公園の周辺の桜も50年経って、伐採とか、或いは枝を切るとか、一時期に比べたら本当に桜が貧弱になってきている。これはもう事実なんですね。

ですから、これをそろそろ、苗を植えていくことが必要じゃないかっていうことを提案させていただいているんですけどね。それも一つの課題ではないですか。

(増田会長)

そうですね。大体ソメイヨシノはもうクローンですから、50年、60年で劣化してくると言われてますんで、次世代につくる時には、極力、在来種っていうんですかね、郷土種の山桜とかカスミザクラとかそういうのを入れると、樹齢は200年、300年持ちますので。

但し、華やかに一気に咲く時期が集中するというのがソメイヨシノの特徴なので、意味合いから言うと、上手く混ぜて植えるんやろうと思いますけどね。次世代のソメイヨシノの幼木と、それと郷土種の山桜を上手く混ぜて植えておくと、長続きすると思うんですよ。

そろそろたぶん、みんな50年、60年経ってくるとかなり老木化しますから。

それと今、クビアカツヤカミキリという桜に付くカミキリ虫が出てきて、このあたりかなり来てるんじゃないですかね、そろそろ。

(森木委員)

クビアカツヤカミキリっていうもので、先生のおっしゃる通り、バラ科の植物に付くっていうことで、桜にかなり出て来てます。それは、市内一円と言っていいほど外来生物が発生してまして、それを防ぐ手段っていうのが全くないので、見つけたら処分してくださいと。

あとは、樹木にこういうネットみたいなものを巻くっていうふうな手段しかないので、入ってしまうと、もう無理だというような状況になっております。

(増田会長)

そういう面も含めて、次世代の幼木を少し横に植えていくという、次世代づくりが要るんやろうと思います、桜にもね。ありがとうございます。

あと、金剛バルと親子ふれあい祭り、中西さんいかがでしょう。

(中西委員)

今年、富田林市で選挙とかがあって、11月24日は難しいと話があったんですけども、市もなんとか協力いただいて、例年通りやれると。6年目になるんですね、一応毎年2割程度人が増えてると。

もう、ちょっとスペース的に今年で限界かなと。何かちょっと考えなきゃいけないなど。出店者の今回の申込みが30数店舗、要するにキャパ以上の応募があって、基本的に以前から来ていただいている方を多少優遇したりはあるんですけども、富田林市外の方は、ほぼ全員お断りしました。

(増田会長)

そうですか、それは会場のキャパですか。

(中西委員)

そうですね。それとやっぱり暗いのでね、どうしても、多少余裕を見ないと子供も多いので、危ないというのがあるんですよ。本来、メンバーの中では、下の野球場のグラウンドを使ってやりたいという意見もあったんですけど、あれをやるとなると、やっぱり今の我々のメンバーの数ではちょっと無理かなと。要するに、交通整理の問題と、今年に限っては、市の選挙とか色々ありましたので、全く去年と同じレベルでやるという感じで進んでいます。

(増田会長)

たぶん野球場でやろうと思うと、何らかの非常用電源だとか、そういうのを、公的な支援があって、ある一定の基盤がないとなかなか展開しにくいんじゃないかな。

(中西委員)

できないことはないと思うんですけども、やっぱりそれをやるための準備ですね。要するに、レイアウト決めたり、そういうところに今の人数でさけるのかというのは、今5、6人でやっていますので、そこをちょっと来年から考えないといけないなど。

もう一つ、先ほど先生がおっしゃってましたけども、要するに、同時多発的という部分で言うと、このふれあい祭りと金剛バルと、市が下の公園で同じようにその日にイベントやってくれるんですね。3つが相乗効果を生んで、たぶん今年は天気さえ良ければ5,000人くらいは来ていただけるかなと思います。

(増田会長)

一つのやり方は、あまり難しいやり方をせずに、各々の団体が開催日時だけ決めて、同時開催ができると、地域としての盛り上がりはかなり出て来たり、来た人も3ヶ所回れるようになるから楽しいんですよ。その中では是非とも考えていただけると有難いかもしれませんね。

あと、もう一つ、サポーター育成講座で、樹木名板をつくって実行まで繋がっていったという話で、それは良いんですけど、最初から自分たちだけで楽しむ活動ではなくて、例えば、樹木名

板を掲げるのも、お子さんに参加を呼び掛けて、必ず自分たちのグループだけで何かをするんじゃなくて、自分らはホストですと。ホストとしての活動の展開みたいなやつを最初から考えていただくと、次への展開論が大分違うんです。

公園の活用とかいうのは、功罪両面あって、公園の活動をずっとやっていくと、非常に閉鎖的な同好会みたいなやつになってしまうと、反対に排他的になるんですね。

最初から、要するにお子さんとか、一般市民の方を呼んでイベントを必ずすると。自分らだけでやるのは、準備活動はするけど、イベント当日は絶対にお客さんを呼んでという。

よく我々の分野で、ゲストからホストへという話をよくするんですけども、ホストとしての活動へ是非とも繋げていただきたいなと。最初にその意識を持たないと、なかなか上手く育っていきないうんです。その辺の話は是非とも育成講座ではやっていただけると有難いですね。少なくとも、自分たちだけの活動としない。

(事務局：坂口)

ありがとうございます。この講座なんですけれども、今9名の方に入らせていただきまして、今度、具体的に工作的なことをしていくんですけども、また、皆さん追加で参加したい方がおられれば、募集したいと思っております。

年度内に3回、3月までやるんですけども、ホストっていう部分では、4月に寺池公園で恐らく桜祭りがあると思いますので、その場を使って何かホストとなることができるかということのも、この3回の講座の中で考えていければなと思っています。

例えば、クラフト教室みたいな感じで、我々が樹木名板をつくってみて、例えば、桜祭りの会場に来た子供たちと一緒に、名前だけでも書いてもらえるようなことをするか、色んなことが考えられると思いますので、まだまだ1回目終わったところですので、色々と検討させていただきたいと思います。

(増田会長)

そうですね。ちょっと火傷を心配しないといけませんが、少し焼印的な形で、お子さんにも参加してもらって、プレートづくりするというのも一つだと思いますので。

はい、ありがとうございます。大体前半部分それぐらいでよろしいでしょうかね、(2)令和元年度上半期の取組についてということで。

次に移りたいと思います。次が(3)中・長期的な取組について、施設再整備のあり方検討などについて、ご報告をいただければと思います。

(3) 中・長期的な取組について (施設の再整備等のあり方検討など)

(事務局：坂口)

・資料4説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

ただいま、坂口さんの方から中・長期的な取組で、市としてこういう調査業務をスタートするというんですけども。何かご意見、或いはご質問等はございますでしょうか、いかがでしょうか。

はいどうぞ。

(友田委員)

本当に、こういうやっていただきたいな調査をやっていただけるということで、嬉しく思っています。

特に、住民ニーズの把握とか、そこにつきましては、特に手法とか事例とかを知らない方々に聞いた時のアンケートの結果と、それを全部知ってから聞いた後では、全然答えが変わってくるのでね。やはりそういった、今時代も変わって規制緩和とか色んな手法も出て来てるので、そういう可能性があるんだとか、住民主体でこのようにやっている事例があるんだとか、そういうのはある程度インプットして、それを周知した上でアンケート調査するような形をとらないと、次のステップがちょっと小さくなってしまいますので、そこは何らかの工夫を一つしてほしいなど。

それと、今こういう整備構想、あり方検討というものをされているんですけども、ただ単に、計画、絵を描くのではなしに、やはりそれを実現するためには、コミュニティとか地域の方々が活動しながら、そしてだんだんその方々が成長して動けるようになってきて、初めてこの施設についてモノが動いていくようになるので、やっぱり整備プログラムみたいなものがね、アウトプット、こういうふうにしていきましょう、こういうふうに参加して行って、こういうふうに参加していきましょうみたいなところが見えるような絵になっていくと有難いなというふうに思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

他いかがでしょうか。はい、吉村委員どうぞ。

(吉村委員)

今言われた通りだと思うんですが、僕さっき高齢者の方のバスはどうかって話しましたが、この話はこの前、総合まちづくり部会で、ここの話を聞いていたので、あっそうかなって思っているのですが、ただ、この前のまちづくりの時も思ったのだけでも、高齢者の方が、明日のことがあまりないから、当面何してくれる、どうなるんだっていうことがすごく関心高い。僕も良く考えたら、20年ですから、僕は20年後におろかなってイメージもあるから、これはこれで大事ですが、もう一方で、やっぱり僕らまちづくりのラウンドとしては、今の状態の中で、もっと人が動けるとか、色んな人が集えるとか、そういうものを、身近なものを一緒に考えていかないと、ご協力お願いしますよと言って、そんなもの私関係ないよという話在实际出て来てますので、それでは済まないというか、このあたり、大きな計画で、やっぱり身近なところ絶対に見ていかないといけない、そこら辺にしても大分必要じゃないかな。それについては、この間まちづくりについての具体的な要求は、いっぱい実は僕ら聞いてますので、そこは大事にしていかなないといけないというふうに今思っているところです。そういうことで、一緒に考えていきたいと思っています。

(増田会長)

はい。他いかがでしょう。

これは今、非常に重要な発言があって、20年後のまちづくりって20年後にぽっと現れるわけじゃないんですね。毎日、明日、今日からの一歩が積み重なって20年後が発生しますので、当面の動きみたいな毎日の積み重ねみたいなところが一体的に提案されないと、皆さん20年後やったら本当に命があるかどうか分からないし、身体が動いてるかどうか分からない。そういう話で非常に重要な視点ですね。

で、もう一つはここの中で見て、交通政策との関わりみたいなやつを考えておかなくてもいいのかどうかと。やっぱり人の、特に高齢社会になると、家の中における高齢者の人をいかに外に引っ張り出すかというのは非常に重要で、そのためには、交通政策を一体どう考えておくのか、というのが一つですね。

もう一つ、そこまで踏み込むのかどうか分からないですけど、大きな財産として教育施設があるわけですね。教育施設はけっこう空き教室があったりとか、人口減少していくと教育施設の再統合みたいな話は、非常に隠し財産といえば隠し財産なんですよね。そのあたりどう踏み込むのかと。

もう一つは、先ほどの一番最初の話と重なるんですけど、地域コミュニティにどんな参画機会があるのかという、これ単なる先ほどから言ってるようなヒアリングアンケートというのは、ゲストとして要望を聞くというよりも、寧ろホストとして活動する時に、どんな施設整備をしてほしいかという、住民が住民にサービスをするというようなスタンスに立った時の、アンケートなりヒアリングって全然違うんですね。

従来はどちらかというゲストみたいな形で、税金で何やってくれるんですかみたいなアンケートやってきたんですけど、あまり役に立ってないんですね。

そうではなくて、むしろ自らが自らのまちを支える、市民が市民を支えるという活動をしようと思った時にどんな意向があるのかとか、どんなニーズがあるのかとか、どんなヒアリングがあるのかとか、そういうあたりを少し踏み込めるような形になると、次の展開論が見えてくるのかなと。

たぶん、金剛の銀座商店街もまさにそうやと思うんですね。自らが営業していく中で一体どう考えていくのかみたいな話で、そんなあたりも踏み込んで少し捉えていただくと有難い。

だから、そこで書いてある事例収集というのは、先ほど友田委員からもあったように、単なるハードとか空間整備の事例ではなくて、それに人がどう関わって、どういう成立の仕方をしている事例なのかというような、そういうものも一体的にということが不可欠なんやろうなという今の時代ですね。

(吉村委員)

すいません。先ほどのものにちょっと付け加えて、交通がどうしても気になっているんですけども、ちらっと聞いた話では、65歳以上の方が確か100円で乗れる、めちゃくちゃ人気があるって聞いているんですが、逆にそれで経済効果が大きいんやって話もちらっと聞きまして、そうやって考えた時に、経済効果も含めて、人が動いたらやっぱり買い物へ来るという、そういうことも含めて、調査では人の動きを含めてやっていただいたら、もっとう、みんな身近な問題と言ったんですが、生きてくるじゃないかと思しますので、ぜひそこら辺も一緒に調査の中身といいますか、他の周辺の上手いことやってるといふか、経験も聞いてやっていただけたら有難いなと思しますので、すみませんが、そういうことで是非よろしくお願ひしたい。

(増田会長)

あとは20年後ということになると、どんな社会が成立しているかという、今泉北の再生なんかでも議論してるのと、或いは京阪奈学研都市のニュータウン開発なんかでも議論してるのが、もっとやっぱり自動運転が成立していくやろうと。

そうやって考えると、例えば泉北の場合なんか緑道も利用して、セグウェイみたいなやつで、1人乗りの、要するに歩行器ですよ、それが勝手に自分で自分の車庫に戻れると、乗り捨てても。

そういうふうな時代が、ひょっとしたら20年後にはできているかもしれない。だから20年後を考えると、要するに個別交通が、要するに公共交通に変わり得るような、そういう交通政策も出て来るはずやと。

だから、どっかで買い物に行くのにどっかで乗り捨てて、スーパーで乗り捨てたら、自動走行の車椅子みたいなやつは、所定の位置に勝手に戻れるような、そんな仕組みが20年後であれば有り得ると。そんなものに対して、今の段階で一体どんなことを考えておかないといけないのかっていうのも1つは考えるという。

特にこれから大事なものは、例えばマストランジットではなくて、やっぱり個別交通に対してどれくらい対応できるような仕組みをつくっていきけるかみたいなやつも、たぶん20年後ということになれば要るんだろうと思うんですね。

他いかがでしょう、よろしいでしょうかね。

特にやはり、ここでまちづくり会議でも今日たまたま出てました総合まちづくり部会ですか。あのあたりとの連携ですよ、かなり密にしてもらって展開をしていくと、よりフィジビリティの高い、中身の濃いものになっていくのかなと思うんですけどね。

従来型のアンケートは絶対と言っていいほど駄目で、殆どマーケティングになってないんですね。もう聞かなくても分かるような答えしか出て来ないと。公園整備してほしいとか、段差を解消してほしいとか。

そうではなくて、本当の意味のマーケティングっていうのは、こういう商品開発をして、こういうシステム開発をするから、それに対して住民は賛同するんですか、しないですかっていう。

まず商品開発をして、アンケート調査しないといけないんですね、普通商業ってそうなんです。新しいチョコレートができたなら新しいチョコレートの試作品をつくって、これをこれだけの値段で買いますか、買いませんかという話が本来のマーケティングですね。

従来までやってきたアンケートというのは、どんなチョコレートが良いですかと、どんな味が良いですかと聞くと、一般的な答えしか出て来ないんですね。

かなりそれはもう、アンケートっていうよりも、アンケートしなくても大体予測の付くアンケートで、そうではなくてこれからのアンケートっていうのは、やっぱり商品開発をして、それに対して本当にイエスかノーかとか、投資するか投資しないかみたいな、やっぱりそんな調査をしないとなかなか実態的なものになっていかないと。

そんなのを少し、折角されるんだったらやっていただけると、ですからアンケートづくりの段階から、極端なこと言うと、まちづくり会議と連携してもらって、どんなアンケートをつくったらいいですかと。

そうでないと一般論のアンケートって、殆どしなくても大体分かるような答えなんです。そんなものでよろしいでしょうかね。はいどうぞ。

(溝口委員)

最後にちょっとお願いしたいんですが、先ほどの、私の方から提案した金剛中央公園の改

修計画。これ、サウンディング方式も結構ですが、ここに書いていますように、結果ありきではない。住民視点のニーズを踏まえてということで、例えば私の方から報告した内容も、今も話題となった20年先の問題ではない、待っておられない。今、この地域に住んでいる人が。

例えば正式に提案したいのは、12月以降になりますけど、ここに福社会館のようなお風呂があったら良いなど、プールが復活したら良いなど、児童館があったら良いじゃないか、ここに憩いの施設があったら良いじゃないか、公道から車椅子で、スロープで公園まで降りれるアクセス道路があったら良いじゃないか。

こういうものを、実現したいというのが先ほど提案した内容なんです。それは20年の先の話じゃないですね。やろうと思えばもちろん費用も掛かってきますし、費用の最終のあり方も検討したら良いんですけど。私の考え方としては3年、4年のこういうスパンでの考え方なんです。今欲しいと思っている人たちがそこで憩える場、総合的な憩いの場としての提案になる訳ですから、その施設の再整備のあり方というところで、12月に提案するものを具体的に上げて欲しいんです。

それを、じゃあどうして具体化するのかというのを検討していただきたい。それがここに書いてあるニーズを踏まえて検討を進める必要があると、住民視点のニーズを踏まえて、サウンディングの調査結果ではないと、ここに現在受注者の選定作業中ということも書いてあるので。

そうすると、やはり住民のニーズを踏まえた検討を進めると。何も、私が先ほど提案したのが、必ずしも住民ニーズの視点を踏まえたということではないとは思いますが。我々の範囲内で検討した結果ですから。だけど、それを1つの材料として検討していかないと、この住民視点のニーズを踏まえた、或いはサウンディングの結果の調査ありきではないと書いてあるのは反故になってしまう、ということは申し上げておきたいと思えます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

20年後は、20年後に突如として現れるんじゃないありませんので、今日明日の問題というところで、少し踏まえていただいたらと思います。ありがとうございます。

それでは、あと残されているその他の中で、南海電鉄さんと、URさんと少し検討されてるような状況があるというので、ご報告いただくというので、まず南海電鉄さん、山田さんの方から、すいませんよろしくお願ひします。

(4) その他

(事務局：竹内)

ちょっと追加資料配らせていただきます。

(山田委員)

改めまして、南海電鉄の山田でございます。座ったままで進めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

名簿のところにてですね、営業推進室なんばまち創造部と書いてるんですけども、実はこの6月

に組織改正がされまして、経営政策室沿線価値創造部という部署になってございます。

先ほどからお話出てますが、人口減少の局面を迎えまして、これまでの鉄道会社は、デベロッパーとしてハードのまちづくりをしてきましたけれども、それだけではなくて、ソフトのまちづくりを担っていくという部署として、この6月に新たに組織された部署でございます。

具体的にどうやって沿線の価値を上げるのかということになるんですけども、まずは、教科書的に言いますと、交流人口を増やす、訪れていただく人が増えると、そこで仕事が増えるだろう、つまり事業者であったりとか、事業所、働く場が増えると、住む人、すなわち定住人口が増えると。交流人口を増やして、定住人口を増やすというロジックを整理しまして、我々は、日々活動しているということになります。

具体的にどうやって交流人口を増やすのか、どうやって定住人口を増やすのかということになるんですけども、まず交流人口のところは、1つ目は、和歌山市の加太地域でリノベーションまちづくりと言う活動に取り組んでございます。

色んなまちづくりの仕方があると思うんですが、和歌山市は、まちの空家、或いは遊休不動産をリノベーションして、それに寄って来る人を増やすという手法で、実際に和歌山市内で実績を上げておられます。

このリノベーションまちづくりという考え方は、北九州とか熱海で成功事例がございまして、和歌山市さんもそれを取り入れられて、実際に成功されています。

この市内で活動された成功例を、ちょっと外れた加太のところでも取り組んでみようということで、今年度に入ってから、いわゆる講演会ということで、いわゆる全国でまちづくりに成功された方をお呼びして、まちづくりの成功例のお話をいただくという講演会をずっと続けていきます。

来年の2月にリノベーションスクールということで、実際加太のまち中でどういうふう空き家を再生していくのかということを考える取組がいよいよスタートするというのが1つです。

もう1つは、高野山の魅力をもう1回、改めて上げていこうという、高野山魅力向上プロジェクトというのに取り組んでございます。その第一歩目が、チラシをご覧いただいておりますが、先日11月2日に、九度山と高野下の駅、それぞれ駅舎です。これどちらも無人駅なんですけど、駅をリノベーションしまして、九度山については、おにぎりステーション、高野下については、関西で初めての駅舎ホテル。駅員さんが泊っておられた部屋を、そのままホテルに変えるという関西で初めての事例を実際に事業化いたしました。

おかげさまで、おにぎりステーションについては、大変おにぎりが美味しいと好評をいただいておりますので、想定以上の売上でございますので、もしよろしければ、ここから高野山へ下っていただければ、降りていただけたと思いますので、ぜひお越しいただければと思いますが。高野下というのは、実は昔は高野山まで電車が行ってなくて、高野下までしか電車がなかった、そこから車とか歩いて高野山へ上がられていたらしいんですけども、いわゆる昔の宿場町として栄えたまちでございまして、今回我々はその駅にもう1回泊っていただく拠点をつくって、今後そのまちの方々が高野下の推出地区というところにあるのですけれども、皆さんのお力で、もう1回まちづくりをしていただきたいと。我々南海電鉄がきっかけをつくって、これから一緒にまちづくりをしていくという事例を、今回事業化いたしました。

今申し上げた和歌山の加太と高野山は、いわゆる交流人口、訪れていただく方を増やすという取

組でございます。

もう1つ、すでに配っていただいている南海沿線のアトツギソンですけれども、これは定住人口を増やす取組でございます。

どうやったら沿線に仕事場が増えるのかということ考えた時に、最近スタートアップとか起業とかベンチャービジネスとかいう、耳にやさしい聞こえの良い話はあるんですけれども、実際にその本当に元気のあるスタートアップの会社さんができると、東京へ行ってしまうというようなお話を聞きました。

よくよく考えてみると、堺市であるとか泉佐野市であるとか泉大津市なんかは、元々ものづくりの拠点、会社が沢山ございます。

そういう会社をもっと、もう1回、後継ぎさんに元気になってもらって、その事業承継であったり、第二操業、どっちでもいいと思うんですけれども、そういう会社にもう1回元気になってもらう方法はないかと考えていたら、レジメの4番の(2)の審査員のところに、一般社団法人ベンチャー型事業承継、代表理事の山野千枝さんと名前があるんですけれども、この方が去年2回、全国版のアトツギソンをやられました。

アトツギソンでは、後継ぎの方々にアイデアを出してもらい、マラソン形式でアイデアを出してもらい3日間のアイデアソンということなんですけれども、この方とお会いする機会を得まして、アトツギソンというのは、建物のリノベーションに例えれば、会社のリノベーションですか、というふうにお尋ねをしたら、まさにそうですとおっしゃって、じゃあそれを南海沿線バージョンでやっていただけますか、というようなお話をしたら、やりましょうとおっしゃっていただいて、今回の8月末から9月に掛けてやらせていただきました。

実際このイベントをやって、いきなり事業所ができるのかとか、いきなり会社が元気になるのかという、そんなことは全くなくて、先ほど来10年先、20年先という話ありましたけれども、南海沿線に後継ぎで、非常に強い熱意を持って、気持ちも持って何とかしたいと思っている人たちのネットワークができて、その中で1つでも2つでも事業所、会社ができていけば良いと、まずは、我々がそのきっかけをつくろうということで、このイベントをやりました。今年度1回やりまして、来年度以降も続けていきたいなと思っています。

残念ながら今年度は、富田林市さんも隣の大阪狭山市さんも来られた方ゼロだったので、来年度以降は、1人でも2人でも参加をいただいて、それこそ富田林市、大阪狭山市で元気な事業所をつくっていただくというきっかけを、皆さんで持っていただけたらなというふうに思っています。

繰り返しになりますが、我々は、交流人口を増やして、訪れる方を増やして、そこから元気な事業所が1つでも2つでもつくれることで、住んでいただく方が増えるという意識で、まちづくりに取り組んでおりますので、引き続きご協力をいただければと思います。以上でございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。続いてURさん、もう1点あったと思いますので、ご報告をいただければと思います。

(鬼頭委員代理：志知氏)

はい。URから1枚もののペーパーで、ちょっとご紹介だけになりますが、ご報告いたします。金剛団地においてはですね、団地の管理サービス事務所というものがあまして、管理の職員が日頃業務しているのと、これ以外に、生活支援アドバイザーという名前の職の者を1人置いております。

この職についている者は、年間に2、3回でございますけれども、イベントを開催しております、そのご紹介でございます。

今年に入ってからのものご紹介しておりますけれども、2月に、実際にこの手をつくっていただく粘土体験と合わせて、インフルエンザの予防講習会というものをやっております、これは済生会富田林病院さんとの連携イベントとして、初めてやった事例でございます。

済生会さんとはですね、今、連携協定を締結すべく、そういう方向で動いております、今、良好な連携関係でございます、続いて8月に、健康体操コグニサイズというものを、富田林病院さんのご指導でやっていただいて、それと併せて、大阪府警本部から職員の方2名来ていただいて、防犯教室も併せて行いました。

その後、予定をしているのが、12月3日にしめ飾り講習会ということをご予定しております。

さらに、ここに書いてございますけれども、2月か3月ぐらいにですね、もう1回富田林病院さんと連携イベントを行う予定となっております。これらはですね、決して高齢者向けに特化したわけではないんですけれども、どうしても、来られる方が高齢者になってしまっておるという現状がございますので、今後の課題としては、若い世代が集まれるようなイベントを考えていく必要があるなというふうに考えておるところでございます。

それでもう1つ、ご紹介ですけれども、11月25日に金剛団地でですね、学生さんの就業体験ということで、これはイベントではなくて、学生さんの就職活動の一環でございますけれども、団地を歩いてですね、その後、金剛団地を含めた、この地域の活性化について、どうやっていったら良いのかというようなワークショップをやってもらう予定でございます。

これからのまちづくりにそのまま繋がるというわけではなくてですね、学生さんの就職活動の一環ではございますけれども、若い方がこの地域に目を向ける、1つのきっかけになれば良いかなと考えているところでございます。URからは以上でございます。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。何かご質問、はい。

(事務局：坂口)

11月25日のワークショップ、我々は覗きに行ったりしても大丈夫でしょうか。

(鬼頭委員代理：志知氏)

どうでしょうか。市の方ということではなく、こっそり見に来ていただくのが良いんじゃないかなと思うんですけれども。我々、正式に採用活動をやっているわけではないんですけれど、学生さんが就職に向けて考えるにあたって、ちょっと影響が出ていけないので、なんとなく静かに見ていただく方が良いんじゃないかなと思いますけど、ちょっと確認はしておきます。

(増田会長)

はい。他いかがでしょう。

ちょっと私、何点か分からないことがあって、このアツギソン。これ例えば、今回は富田林市からの参加はなかったですねというふうなご発言ありましたが、具体的にはどんな参加方法が有り得るんですか。

例えば南海さんがこのアツギソンというもので、具体的にどんなプログラムをされてて、それに対して、富田林市に事業所のあるような方は、どんな参加の仕方が可能なのかと。

(山田委員)

我々のこの3日間のプログラムで、アイデアをお話いただきました。そのアイデアを実現していただくのも1つですし、各個人の持つてる思いを事業化していただくというのも1つの方法だと思います。

それは、12月1日の大阪府がやる、跡継ぎピッチというところで発表していただく場もありますし、大阪市、或いは大阪府がやられてるアクセラレーションプログラムっていう、事業をしたいのかという発表の場もございまして、そこに行っていただくことも可能だと思います。

遡って、この今回のアツギソンについては、社内広告、電車の広告であるとか、インターネットでアツギソンというものをやりますということで、各沿線の商工会議所様にご協力をいただきまして、チラシを配っていただいたりとか、駅貼りのポスターを見ていただいたりとか、いわゆる広く、広報をさせていただきました。その中で、残念ながら、富田林市さんからは応募がなかったということです。

(増田会長)

それを受講するのは有料なんですか、無料なんですか。

(山田委員)

食事も含めて7,000円です。

(増田会長)

3日間で7,000円ということですか。

(山田委員)

そうです。

(増田会長)

経営コンサルタントみたいな人が、要するに、ワークショップのコーディネーターをしながら、アイデアを練り上げていくというそんな仕組みですか。

(山田委員)

そうですね。そこにコーチというように書いていると思うんですけども、平和酒造という海南のつくり酒屋さんで、キッドっていうお酒をつくっている山本さんという、この方まさに後継ぎで、今社長をやられていたりとか。スマレジという、スマホでレジ、いわゆるPOSシステムの事業を立ち上げた方とかに、メンタリング講習をしていただいて、というようなことをしました。

(増田会長)

これは、これからも毎年そういうことを公募されて、展開していくというふうに考えていいんでしょうか。

(山田委員)

はい。

(増田会長)

それは、年間どれぐらいの頻度でされるんですか。

(山田委員)

1年に1回と思ってまして、来年度以降は、できれば3年ないし5年は最低でも続けていきたいなと思ってます。

(増田会長)

これは2泊3日の合宿タイプですか、それとも毎日、南海の何処かに集まってということですか、講義室に。

(山田委員)

基本は、その日その日に帰っていただいてもいいんですけども、場所が遠いとか、或いは泊まってということをご希望される方には、有料ですけども、宿をご用意いたします。

(増田会長)

はい、分かりました。ありがとうございます。はい、どうぞ。

(吉村委員)

すみません。南海のことなんですけどもね、個人的なことなんですけども、まちづくりを加太でやってはるでしょ、あれは古民家再生とかも合わせてやってるんですか。

(山田委員)

そうですね、古民家再生も。

(吉村委員)

古民家再生は、古民家再生の方をお願いするというかたちで。

(山田委員)

そうですね、これも先ほどのアトツギソンと同じで、この古民家再生とカリノベーションを経験されている方にコーチをしていただきながら、それを希望される方と一緒に考えていただく3日間というふうに考えていただければと思います。

(吉村委員)

ありがとうございます。それともう1つ、九度山。実はずちの嫁の実家の方なんですけど、おにぎりステーションが最近すごく人気という話聞いて、何かと思ったらこれやったんですけども。九度山から高野下と言ったら、たしか遊歩道的なものがあつたんじゃないかなと思うんですけど、ああいう整備なんかも考えてはるのかな。

(山田委員)

残念ながら、遊歩道は自治体さんに整備をしていただかないと、我々では整備ができないので。ただ、自治体さんは綺麗に整備をしていただいています。

(吉村委員)

そうですか。それなら、遊歩道、トレッキングといえはあれですけど、歩いて高野下まで行けるような、計画的なイメージではそういうものもできてるんですか。

(山田委員)

もう実際に歩いていただけます。先日の土日祝の3連休とか、先日の土日も、実際に歩かれてる方はたくさんおられました。おにぎりを持って、歩いていただいて、お昼に食べていただく。

(吉村委員)

それで人気、話題になつてるんや。分かりました。先生、すみません。

(増田会長)

いえ、よろしいでしょうかね。

URさんも、南海さんも、是非ともお願いしたいのは、こういう事例がありますよという話ではなくて、この協議会の参加メンバーなり、まちづくり会議のメンバーが、どんな形で参画できる可能性があるのかとか、どんな関わり方ができるのかというのを、是非とも披露していただきたいんですね。こんなことやってます、あんなことやってやってますっていう企業宣伝ではなくて、具体的にどんな関わり方の仕組みが今後考えられるのかというふうな形でご提案をいただかないと、なかなか分からないんですね。

だから基本的にはそんな視点で、是非ともここで、色んな話題提供なりをしていただきたいなと、お願いしときたいと思います。

その他いかがでしょうか、よろしいでしょうか。一応、大体お預かりしてた議題は全部終了したかと思しますので、事務局の方に、今後の予定についてご報告をいただいて終わりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

4. その他

(事務局：坂口)

はい、本日は長時間に渡り、どうもありがとうございました。

この協議会の今後の予定なんですけども、今年度は、また来年3月頃に一度開催したいと考えております。

この間、イルミネーションイベントとかバルもありますし、まちづくり会議を中心とした様々な取組も進めておりますので、また報告させていただくとともに、皆さんのアドバイスを賜りたいと思ひます。

それから委員の皆様からですね、様々な報告をいただきたいとも考えておりますし、また、その報告に基づいて、まちづくり会議でできることを繋げていくという形で、色んなご意見をいただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

また、あり方検討調査についても、次回動きを報告できると思ひますので、よろしくお願ひいたします。

あと、来年度以降もですね、この協議会は継続をしていきたいという意向で考えております。その中で、あり方検討調査の結果等も踏まえて、中・長期的なまちづくりに向けての推進体制の整理というものも進めていく必要があると考えておりますので、その辺についての意見交換もまたお願ひしたいと思ひておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

(増田会長)

一応、今日予定をしておりました案件全て、少し10分ほどオーバーしましたけれども、終了したと思ひます。色んな意味で、色んな意見交換なり、できたと思ひます。こういう、実際にステークホルダー会議というんですかね、自由に意見交換ができるということが非常に重要だと思ひますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

事務局に進行を返したいと思ひます。どうも今日はありがとうございました。

(事務局：坂口)

・閉会あいさつ

以上